

令和7年度（第2回）北九州市公共事業評価に関する検討会議 議事録

日 時：令和7年11月19日（水）

10：30～11：15

場 所：市庁舎5階 プレゼンルーム

1 事業内容説明・内部評価結果について

【事前評価2】響ホール・国際村交流センター共用部大規模改修事業

～事業課から資料1・資料2・資料3に基づき説明～

2 質疑応答について

○構成員

現地を見せていただいて気になったのが、湧き水が原因の劣化部分です。建設時にも多かれ少なかれ湧き水の問題はあったのではないかと思います。建設当初に湧き水対策を行った箇所があるのかどうか、今の段階で分かっていることはあるでしょうか。

それと、基本設計が終わっている段階で、湧き水への対処方法をどのように考えているのか教えていただきたいと思います。抜本的に対策しようとする場合と施設に入ってきた水をどう流すかといった場合とでは、おそらく予算がかなり違ってくると思いますので、今わかっている範囲で教えていただければ。

●都市ブランド創造局文化企画課

建設当初の状況について、そこまでの資料の精査がまだできておりませんので、当時どれぐらいの対応をしているか、具体的にお答えできるものはありません。

今回の改修にあたっては、来年度の実施設設計の際に、例えばコンクリートが剥離している部分に薬剤等を注入して水を止めるのか、あるいは少し土を掘って水が湧き出てくる前のところから別のところに流すのかなど、複数の検討が必要と考えおります。基本設計の段階ではそこまでの深掘りの調査ができておりませんでしたので、実施設設計の際に詳細な調査をして、コスト面と施工面で最も適した工法を選定したいと考えております。

○構成員

大きく金額が変わってくると思いますので、こういった工法を採用するのか早い段階で決められた方がよいと思います。雨漏り等と違って、湧き水は完全に止めるのは難しいと思いますので。

それと、改修方法については、建設当初の仕様を復旧させるというより、維持保全の目線で管理しやすい工法や材料を選んでいただけたら、予算的にも効果がある

のではないかと思います。

○座長

例えば、スライド9枚目の地下通路みたいな部分は、壁を壊して作り直すようなことはおそらくできないので、工法なりコストというのは改修のやり方によって変わってくるというのが今のご指摘かと思います。外壁の改修も同じで、早く決めるということが大事かと思います。

○構成員

直接的に関係ない話になってしまうかもしれませんが、私の方で定期的に市民に対して文化芸術やスポーツに対する実施率だとか今後の要望などの意向を調べていく中で、例えば今年3月に実施した調査では、文化庁の調査と整合させて22項目ほどの文化芸術分野の直接鑑賞率、これはオンラインではなく現地で直接鑑賞した割合ですが、文化庁の実施している全国調査の結果と比較すると、ほとんどの項目で北九州市は全国と比べて直接鑑賞率が高い中で、オーケストラ・オペラ・合唱・吹奏楽などは直接鑑賞率が全国値より低い状況にあります。

そういった意味で、文化芸術環境の一層の充実ということを考える上では、オーケストラ・オペラ・合唱・吹奏楽といったような部分で北九州市における中核的な施設である響ホールはよりよい形で整備、そして運営していくことが必要であると考えます。

それから、資料3の内部評価の結果の下から3段落目に、“指定管理者と共に、質が高く、魅力ある公演の誘致や企画に取組んでまいりたい”と記述がありますが、本検討会議での議論から少しずれてしまうかもしれませんが、この“質が高く”というところに市としてもあるいは指定管理者としてもすごくこだわりがあるというのは強く感じているところですし、質が高いという部分にこだわり続けていただくことには意義があると思います。一方で、今は音楽にあまり親しんでいないけれど今後親しんでいきたいような層の方にとっては、この“質が高く”という部分は一体どういうものなんだろう、ということがあると思います。響ホールは今でも小さなお子さん向けに“話してもいい・音を出してもいい”というふうなコンサートなどをやられていて、あれはすばらしい取組みだと思いますが、そういうところを普及させていくということを考えると、やはりトイレの改修やバリアフリー化は必要不可欠なものだと思います。また、高齢化が進んでいく中で、先ほどの現地視察の中でも話がありましたけれど、車椅子の専用スペースだとか館全体のバリアフリー化というのはコスト的な問題もあるとは思いますが、高齢者の方・障害者の方・小さなお子さん・そのお子さんを連れた子育て世代の方が快適にご利用いただけるような部分はこだわりを持って整備していただくということが、市内の文化環境の総合的な充実にも繋がっていき、あるいは今後活用率が高まっていき、エリア全体のにぎわいづくりにも繋がっていく、そのように感じます。ですので、適切な形で整備を進めていく必要があるというふうに考えております。

○構成員

民間でもオフィスビルなどを改修しようという場合、それをコストにしないで、リノベーションで投資をして収益を増やしていくという発想が主流になっています。例えば、環境性能を良くして、そういう意識が高いテナントを呼んでくることで賃料をあげる、ということもあり、それで投資を回収するという発想が大分出てきたのかなと感じています。

今回改修するにあたって、例えば利用料金を引き上げるとか、指定管理のあり方を見直すとか、実現は少し難しいかもしれませんが例えばコンビニを入れるとか、駐車場を有料化するとか、そういう収益を増やすための取組みを可能な限りセットで考えた方がよいのではないかと思います。何かそういうご検討をされたことがあれば教えてもらえますか。

●都市ブランド創造局文化企画課文化芸術担当課長

駐車場については今も有料なので、駐車場収入はありますが、響ホールは市民団体の皆さんの利用もあり、その中で減免の対応をしております。収益という部分ではやはりもう少し考えていく必要があると考えております。具体的にこういった取組みができるのかは、検討課題と思っております。

○構成員

よく聴く話としては、特定の団体が一番いい時間帯をずっと確保していて、本当に市民の皆さんが使っているかと言われるとそうではないパターンもあって、時間はかかるとは思いますが、こういう改修のタイミングに併せてご検討いただくとよいのではないかと思います。

○座長

今のお話とも絡むのですが、元に戻すというよりは何かしらグレードアップするようなことができないのか、というのがこの話を最初に聞いたときに感じたことです。予算のこともあってかなり難しいとは思いますが、例えば屋上部分にソーラーを入れるとか、環境にやさしいという意味ではパッシブエネルギーで温度管理してエネルギー負荷を減らす、あるいは自給できるとか、そういうことは検討されましたか。

●都市ブランド創造局文化企画課文化芸術担当課長

劣化部分の改修という視点がメインだったので、そういったところまでは検討できておりません。

○座長

先ほどのリノベーションの話もそうですが、せっかく改修するのであれば、という思いもあります。

それと、今回の大規模改修によって施設はあとどのくらいもたせる予定でしょうか。築30年以上経過していますが、躯体は同じなのであと30年もつかどうかと

という気がします。このあたりは、全体の公共施設マネジメントとも絡むかもしれませんが。

●都市ブランド創造局文化企画課

躯体については、基本的に今回の改修で総使用期間60年あるいは65年というところを目指したいと考えております。一方、設備系については民間側の部品供給の問題等もありますので、これについては適切な使用期間を設定して、予防保全の考え方に基づいた管理が必要になると考えております。

○座長

いくつかのホールはしっかりと残されるという話もありましたので、そういう意味では中長期的な計画はもう少し意識しておいた方がよいのではないかと思います。

あとはスライド23枚目の数字について少し教えてください。利用件数と稼働率がうまくリンクしていなくて、令和5年度は前年度より利用件数が落ちていますが、稼働率は上がっているようです。これは例えば1つの案件で3日使用しているとか、そういうイメージでしょうか。

●都市ブランド創造局文化企画課

件数は、予約枠ごとにカウントしております。1日3区分の予約枠がありますので、延べ数を計上しておりますが、稼働率は予約区分ではなく、1日単位の稼働率を基に算出しております。

○座長

資料として残るので、そのあたりの説明を追加してください。件数が落ちている一方で稼働率が上がるという、ちょっとわかりにくい数字になっていますので。私からは以上です。

続いて、今日欠席の委員の方々からもご意見やご質問があったかと思いますが、いかがでしょうか。

●事務局

本日やむを得ずご欠席の構成員につきまして事前にご説明をさせていただき、そこでいくつかご意見いただきましたので、ご紹介させていただきます。

まず、これから人口が減る中で公共施設を維持していくことは難しくなるが、こういった文化施設がどの程度必要なのか、集客や収益などの状況を踏まえながら見極めていく必要があるのではないかと、というご意見、

続いて、近年の傾向として事業費が膨らみがちなので、事業費用はよく見積もってもらい、仮に全体事業費が膨れ上がった場合は改修内容を一部見直す、削るなどの対応も必要ではないか。ただ、特定天井の改修はしたほうがいい、というご意見、

最後に、響ホールは収益率が低いようだが、今回の更新を機に収益構造を変えていくようなソフト面の取り組みがあってもよいのではないかと。指定管理者に力を発

揮してもらいたい、といったご意見をいただいております。

○座長

コストの話は本日の意見の中にありましたし、収益構造のための運営の改革という意味でも意見がありましたので、我々が話したことと概ね同じ意見でしょうか。それでは、他に追加の意見などはなかったでしょうか。

////////////////////////////////////

○座長

他に意見がないようなので確認させていただきますが、この事業を計画通り進めていくことに対してご異議やご意見はありませんでしょうか。

(意義なし)

それでは、計画通り進めていくことを前提とした上で、検討会議としては大きく3つの意見があったかと思います。

まずは事業費・コストの問題です。特に地下部分は今から調査してからでないと具体的な工法が決まらないとのことですが、道路事業などでは掘ってみたら予想と違ってコストが非常にアップした、というようなこともありますので、早い段階で事業費をしっかりと確定させていただきたい、ということです。

あわせて、昨今は事業費がどんどん上がるということもありますので、それについては今日欠席の構成員からも意見がありましたが、事業費が大きく増額することになれば、場合によっては計画を少し見直すということも念頭に置いていただきたいと思います。

2つ目は、バリアフリー化を検討されているようですが、せっかく改修されるということで、子どもや高齢者も含めて多くの方が使いやすいような工夫を積極的に検討していただきたいと思います。

3つ目は、施設の価値を上げていくということも少し意識していただけないか、ということです。収益構造の話もありましたし、運営についてももう少し工夫して収益を上げるというような話もありました。せっかく環境都市を目指す北九州市ですから、例えばエネルギーのことや環境にやさしいというようなイメージも含め、何か付加価値をつけるようなことが検討できないかということでございます。

以上3点を検討会議の意見とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか？

(異議なし)

ありがとうございます。

意見の具体的な記載内容につきましては、座長の私が事務局と調整させていただ

きます。

以上